

# NASC 2020 報告書



# NASC 2020 報告書



## 目次

### 人材育成 / 発表の機会

参加型展示会～制作日誌・・・・・・・・・・・・・・・・ P4

展示会実績・・・・・・・・・・・・・・・・ P12

寄稿…飯塚純・・・・・・・・・・・・・・・・ P18

参加型展示会 2017年からの振り返り・・・・・・・・ P20

### 相談事例①②～権利保護：

障害のある方の創作活動に係る事例検討会・・・・・・・・ P28

発表の機会：オンライン発表会・・・・・・・・ P30

訪問調査・・・・・・・・ P34

### 商品化支援

高田ロータリークラブ「フクシ×アート×デザイン展」・・・・ P38

### NASC拠点の新設

ふふふのお店・・・・・・・・ P40

〔凡例〕

NASC・・・・・・・・新潟県アール・ブリュット・サポート・センター NASC

## はじめに

コロナ禍において集合型のイベントがほとんどなくなりました。障害がある方の表現活動も、作品の発表の機会や、パフォーマーの活動の場が減っていました。活動の観点だけでなく、障害のある方は基礎疾患を抱えている方が多いため、外出してアート活動を楽しむ機会も喪失しました。このことは、これまでの集うだけの表現活動だけでは、今後迎える新たな社会を乗り切れないことを示唆していると言えます。

そのような課題を解決するために、今年度は、リアルな場とオンライン双方で作品発表の機会を企画しました。作品発表の機会を失われた方、また鑑賞の機会を失われた方への支援の方法を検討しました。感染予防を徹底しつつ、展示会場の視察や図面の作成、草の根の広報、また新たな試みとして作家紹介の動画も作成しました。

移動制限で調査訪問や研修の事業は縮小しましたが、今回のリアル・オンラインのハイブリッド型の取り組みなど、今後も様々な方法・ツールを活用し芸術文化活動を支援、発表し、楽しめる機会を作っていきます。

新潟県障害者芸術文化活動普及支援事業  
新潟県アール・ブリュット・サポート・センター NASC



## 人材育成 発表の機会

参加型展示会（新潟県上越地区）  
ほくらのアール・ブリュット「ここていきるここてつくる」展  
ができるまでの記録



### 「ほくらのアール・ブリュット」実行委員会

- |                           |                           |                         |                 |
|---------------------------|---------------------------|-------------------------|-----------------|
| 馬場悠斗さん(当事者)<br>★馬場友絵さん(親) | 石塚杏珠さん(当事者)<br>★石塚香菜さん(親) | 佐藤葉月さん<br>(当事者)         | 坂井亮円さん<br>(当事者) |
| 情報資格試験さん<br>(当事者)         | 押山優樹さん(当事者)<br>押山晶子さん(親)  | 長田匠さん(当事者)<br>長田ゆみさん(親) |                 |
| ロングラン石塚紀子さん<br>(施設支援員)    | 奥田弥生さん<br>(施設支援員)         | 中村直忠さん<br>(当事者)         |                 |
| ★実行委員長                    |                           |                         |                 |
| 事務局：NASC<br>坂野、角地、渡辺      |                           | アドバイザー<br>飯塚純(美術家)      |                 |

## 日誌

2020  
2月22日(土) 第1回  
会場：高田小町

心持新たに、実質2020年度に向けた  
展示会のための第1回実行委員会の開  
催。2020年度はみんなでききるが実  
行委員会事務局となる、日本博を契機とし  
た障害者の文化芸術フェスティバルin東  
海・北陸ブロックが8月に開催予定(※)  
のため、その期間に合わせて開催すると沢  
山のお客さんに見ていただけるのではない  
か、と話されました。

また、自分たちの広報活動として、春に  
市民プラザで開催される市民活動イベン  
トにブース出展しようということになり、  
事務局が申込みをしました。

※その後、オリパラ東京2020大会の延  
期と緊急事態宣言発令のため、11月開催に  
変更になりました。

2020  
3月21日(土) 第2回  
会場：ミュゼ雪小町

新型コロナウイルスの感染が広まりつつ  
あり、公立の学校が臨時休校になった中、  
会議室のドアを開け放ち、また着席も間隔  
をとっての開催。

8月開催にむけて、展示会のタイトル決  
めや日程、作品やグッズについての話し合  
いをしました。展示会タイトルは自分たち  
も「アール・ブリュット」という言葉を使  
用したいという意見が上がり、「ほくらの  
アール・ブリュット」に決定。また、前回  
参加を検討していた市民プラザでの市民活  
動イベントが7月に延期することとなつた  
ので、再度申込を行いました。

※4月：第3回を開催予定でしたが、  
緊急事態宣言発令中のため、延期することに。

## 実行委員会について

2017年度より上越地域では、参加  
型展示会(通称・もちより展)を開催し  
てきました。初年度はNASC主催と  
して行ってきましたが、2019年度よ  
り市民参加型で実行委員会を組織化、展  
示会の企画を行いました。リアルに集合  
する会合だけでなく、SNS・フェイス  
ブックのMessenger(メッセン  
ジャー)でグループを作り、その中での  
やり取りも活発に行われました。

## 前年度の動き

令和元(2019)年は新潟県で開催さ  
れた全国障害者芸術・文化祭の一事業とし  
て、10月にリブレリアホールを会場に開  
催。リブレリアホールは元書店で、ワンフ  
ロアの広々としたスペースです。開催前  
に壁を白いペンキで塗り、白い段ボールを利  
用した稼働可の展示壁をメンバー皆で作  
って作品展示をおこないました。展示会終  
了後2019年12月に振り返りを行い、  
2020年度も開催する方向で皆さんの意  
志は固まりました。

2020  
5月30日(土) 第3回  
オンライン開催

初めてオンラインでの実行委員会とし  
た。オンライン会議のためのアプリ、  
ZOOMを使用。これを機に事務局は、今  
後のコロナ禍とそれに係る事業の進め方  
について話し合い、ZOOMの有料版会員に  
加入。3人以上の会議のホストが可能とな  
りました。

別件の新潟県の事業として企画している  
オンライン発表会(※P30)の試行事業と  
しても行いました。内容は、最近の制作状  
況の写真を事前に事務局で集め、個別に報  
告いただき、その後全員で感想を共有する  
というもの。ZOOMを使用したことにな  
いメンバーがほとんどだったため、事前に  
事務局で個別に接続確認を行い、当日に臨  
みました。

5月14日に新潟県、5月31日で東京等の  
都市部の地域も緊急事態宣言が開けました  
ので、再び仕切り直し、グループメッセ  
ンジャーで予定調整をおこないました。

緊急事態宣言が開けたため、会議を行いました。久しぶりの集まりでしたので、多くのことを話し合わなければなりません。集まれなかった期間中の以下について、共有しました。

- 1 NASC（みんなできる）が実行委員会事務局を担う日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバル in 東海・北陸ブロックの開催が11、12月に延期になったこと
- 2 参加申し込みをしていた市民プラザでの市民活動イベントがコロナ禍により正式に中止となったこと
- 3 8月7日にオンライン作品発表会をNASCで企画したので、参加者を募集していること

第5回会議で決まったこと

1 広報チラシ作成について チラシ制作リーダーの設置

今回のチラシは、代表作品と作家の紹介をレイアウトすることになりました。スケジュールを決め、各自素材となる作品画像やプロフィール文を用意。それを集約する作業やデザイナーとの連絡調整する、制作担当者1名を決めました。リード文は委員の推薦で出展者の佐藤葉月さんが制作することになり、基本概要などは事務局が用意することにしました。



2 グッズについて

昨年は缶バッジを作成しました。今回は飯塚さんのアドバイスを受け、チラシの表紙と同じデザインのクリアファイルを作成することになりました。

3 広報について

チラシをどこに何部配布するのかを相談し、2000部印刷することに決定。地元の顔の見える方や施設などへ、メンバーが直接手渡しで配布することにしました。

4 展示プランについて

2年前の展覧会時から使用している様式の展示プランシートを各自作成し、9月中旬までにグループメッセンジャーで共有いただくことになりました。



そして、改めてこの上越地域の参加型展示会を、いつ、どこで開催するのかということをお話ししました。まずは会場について。過去2回開催のリブレリアホールではなく、作品をよりしっかりと見せられる展示会場を希望したことにより、天井高がある白い壁で構成され、照明の調整も可能な市営のギャラリー「ミュゼ雪小町」を使用することになりました。開催期間は、同時期に上越の街中で行われる文化イベントを考慮し、10月末から11月初めに決定。開催期間が概ね決まったことで、今後展覧会までに行う研修会やプレ展示の日程が決まりました。

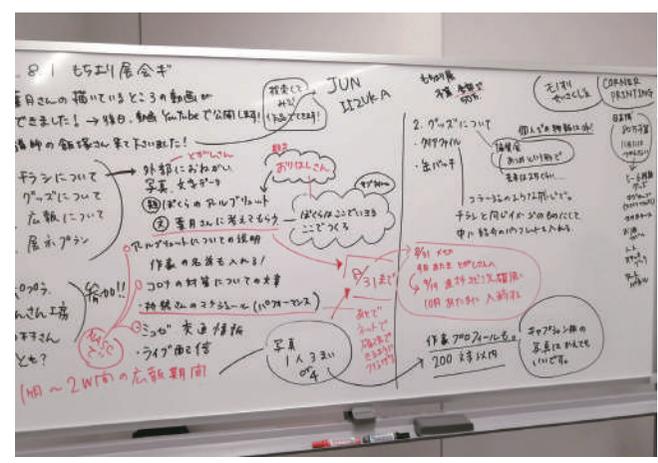
あわせて、展覧会に向けてワークショップを企画することに。メンバーの石塚香菜さんが過去に交流のあった、上越市出身の美術作家の飯塚純さんへアドバイザー兼講師を依頼することになりました。

5 ワークショップ／研修会、プレ展示、本番のスケジュールの決定

会期はミュゼ雪小町のスケジュールと調整結果、10月末～11月初めとなりました。今回、参加型展示会では初となるギャラリーでの展示会となります。作品展示に適した空間である半面、その空間を活かせる展示計画が必要でした。なかでも照明については、過去開催してきた会場では蛍光灯の照明が固定であったため、自ら照明を動かすことはありませんでした。空間に高さがあり、かつ白い壁に作品を展示することが今回必要になったことから、飯塚さんから展示について、また、照明の使い方について学ぶことになりました。



飯塚純さんを初めてお迎えしての実行委員会。会議に同席いただきました。NASCより、佐藤葉月さんの紹介動画を制作したことを報告、皆さんにお披露目。(その後、YoutubeのNASCチャンネルにて誰でも動画が見れるようになります。P.17参照) 会議内容は具体的な展覧会期に向かって進めていきました。



作品展示について、5つの内容をレクチャーいただきました。設営にあたり、会場の様子や搬入の記録の重要性について、また、記録写真の具体的な使用例（製本サービス、コンビニの製本機能など）についてレクチャーいただき、実際に作品を壁にかけ、照明を当て、スマホを使って作品撮影を行いました。



2020  
9月19日(土)  
第6回 会場：ミューゼ雪小町ギャラリー-B,C

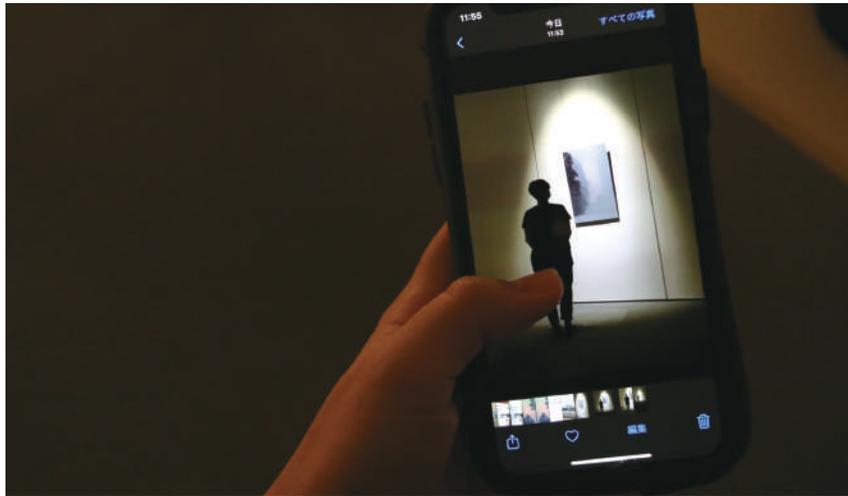
午前はワークショップ開催、午後から各出展者個別に展示プランの相談と全体の展示プラン計画（誰がどこに展示するか）をおこないました。

## 展示設営 についての 実践ワークショップ

講師：飯塚 純 (美術家)

- 1 記録写真と、写真の残し方について
- 2 会場をじっくり見る時間
- 3 展示フックや照明の扱い方について
- 4 スマホを使った作品の撮影について
- 5 展示プランシートを基に設営計画を立てる

照明や展示用フックなど、参加者にとっては初めて触れる道具が多かったため、丁寧に取り扱いを説明いただきました。また、スマートフォンのカメラ設定で「グリッド表示」と「露光調節」について説明を受け、簡単に美しい写真が撮影できるコツをお聞きしました。



前回9月19日の議題を持ち越し、チラシの広報計画とデザインについて話し合いました。広報は、メンバーそれぞれのネットワークやよく行く場所などを出し合い、チラシ設置をお願いする役割分担を行いました。

2020  
9月28日(月)

第7回  
会場：上越市福祉交流プラザ





広報用のチラシも完成し、それぞれが必要部数を持ち帰りました。その後、広報活動の経過はグループメッセージャーで共有していきました。

本番の展覧会に向けて、実際に展示を試してみる時間を設けました。事前に検討したレイアウトに沿って壁をたて、展示部材の調整や、展示作品の分量、展示にどのくらい作業と時間がかかるのか、試してみることでできる一日を設定しました。また、受付からの誘導導線や照明・音など全体的な調整を行いました。

展示の経験が豊富な飯塚純さんやNASCのスタッフが作業に付き添い、都度相談ができる体制を作りました。

この時間があることで、ギャラリーや美術館等のような広いスペースで展示するのが初めての人でも、安心して本番に臨むことができました。

## プレ展示

2020  
10月10日(月)

第8回 10時〜17時  
会場：ミュゼ雪小町ギャラリー  
A・B・C



実績

展覧会開催

2020年10月30日(金)～11月3日(水・祝) 10時～17時  
 延べ5日間 会場…ミューゼ雪小町ギャラリーA・B・C  
 助成…公益財団法人真柄福祉財団



延べ612名の方から来館いただきました。期間中は、新型コロナウイルスの蔓延防止のため消毒・検温を行い、来館者に連絡先を記載してもらいました。また、密度の高い空間を避けるために、通路の幅に余裕を持たせました。実行委員から作品の説明を行う場面もありましたが、適度な距離を保ちマスク着用で対応しました。

展示内容は、当日急遽展示した方もあわせて20名の作品を展示しました。作品数は500点以上、上越地域では過去最大の市民参加型のアール・ブリュット展となりました。美術作品だけでなく、パフォーミングスを1日2回公演しました。出展者の動画の放映も行い、多くの方が展覧会を楽しんでいました。

出展者数	20名
出展作品数	500点以上
来場者数	612名

展示作業…2020年10月29日(木) 9時～22時  
 撤去作業…2020年11月3日(水・祝) 17時～19時  
 ※撤去作業は11月4日も実施することを見込んでいましたが、作業が捗り11月3日のうちに完了しました。



# 振り返りでの意見

## ワークショップ／研修会について

- ・アーティストとして活動する飯塚さんの研修会は大変学びになった。
- ・今まで使ったことのないもの（照明、展示ケース、展示道具）に触れられてよかった。
- ・展示の仕方やちょっとしたコツのようなものも聞けてよかった。
- ・プレ展示に飯塚さんが常時いてくれたのがよかった。

## 広報について

広報先は上越地域の小学校、特別支援学校、ショッピングモール、文化施設、行政機関に配布。一方でチラシが会期前に足りなくなるなど、広報計画の見通しができていなかった。

## 来場者について

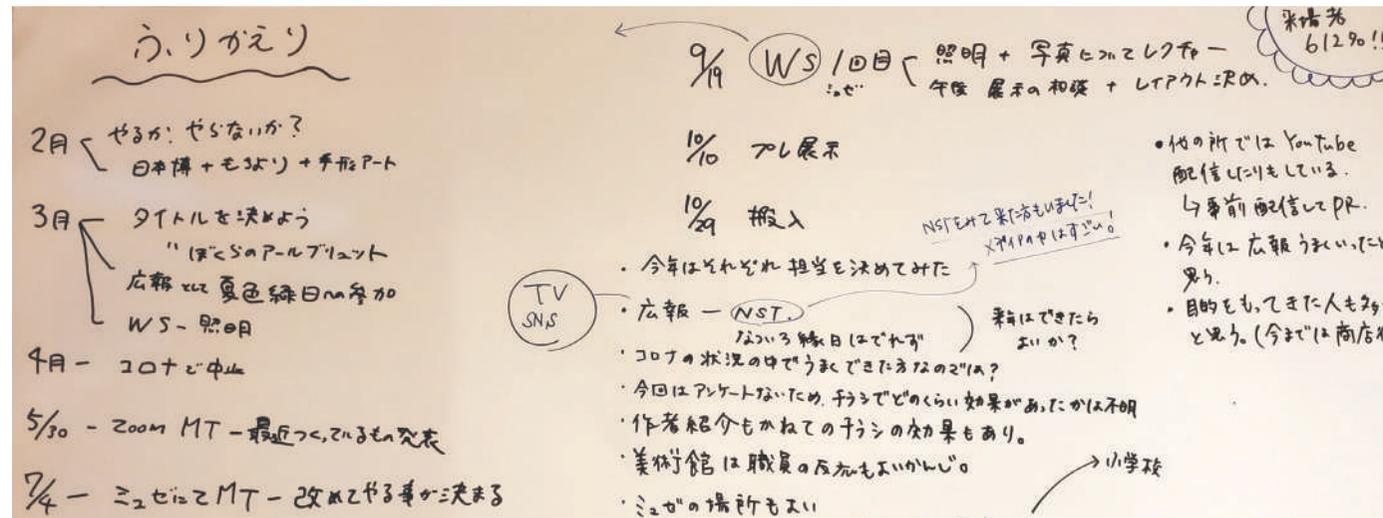
- ・出展者の知人・家族だけでなく、チラシを配布した特別支援学校の関係者も多かったようだ。
- ・参加型展示会が上越市の秋の恒例行事として定着しつつあり、楽しみにしている方もいる。
- ・本人がいるので直接コミュニケーションがとれてよいという意見をもらった。
- ・情報資格試験さんのパフォーマンスが、地域の伝説を題材にしていたので、近所の小学生が授業で来場されたことが良かった。

## グッズについて

来場者からグッズなど商品化をのぞむ声を多くいただいたので、今後作っていきたい。

## 意見／課題

- ・作品の搬入・展示作業や広報など、作家本人や家族・支援者だけでなく、年間通じてお手伝いしてくださる仲間を集めたい。
- ・今回はコロナ禍で直前まで参加できるかわからなかったが、結果的に参加ができてよかった。（柏崎市からの参加団体）
- ・計画していた展示プランが叶わなかったり、作品同士の緩衝があることが気になったため、難しく感じる場所があった。次回参加するかどうかはわからない。



## 振り返り

展覧会と、それにまつわる経緯の振り返りをおこないました。

作品展示に関しては学びや喜びが多く、それぞれ満足した意見が並びました。絵などの平面作品だけでなく、パフォーマンスもあることで広がりのある展覧会になったと意見ができました。

また、コロナ禍でしたが、感染者が少なくなつたタイミングでの開催となり、612名と多くの方に来場いただけました。検温や個人表の記入等、例年と違う対応がありました。実行委員だけで会期の5日間を運営することができました。

2020  
12月19日(土)

第9回  
会場：高田小町

# 実行委員 それぞれの 動き

6月 新潟県のコロナ禍による文化支援のためのクラウドファンディング「結プロジェクト」に、情報資格試験さんが参加。6月28日の新潟日報朝刊でも紹介されました。

8月 高田世界館「燈會宵市（らんたんよいち）」で佐藤葉月さんが出展。「ぼくらのアール・ブリュット展」についても紹介しました。

9月 NST新潟総合テレビ「NSTまつり～夢見るテレビSP～」での企画参加

実行委員の佐藤葉月さんが、NSTのTwitterを見て企画応募し、見事採用されました。内容はコロナ禍での作品発表の機会がなくなったことから、作品を紹介する機会がほしいということでした。12日にはNST新潟総合テレビの番組「スマイルスタジアム」で実行委員の佐藤葉月さん、石塚杏珠さん、上越市内の福祉施設ポプラの家が紹介されました。25、26日には「NSTまつり～夢見るテレビSP～」番組スタジオ内で絵の展示がされました。テレビ放送で多くの方にご覧いただけたことで、実行委員の機運が高まり、その後の展覧会の広報活動に繋がりました。



**NSTまつりとは**  
新潟総合テレビの「スマイルスタジアム」で年一回放送される特別番組。2020年はコロナの影響で例年とは様子を替え、YouTube動画企画など新しい試みが行われた。その中で佐藤葉月さんが企画を持ち込み、アールブリュットが採用され番組に華を添えることとなった。



9月 NST新潟総合テレビの番組「スマイルスタジアム」で実行委員の佐藤葉月さん・石塚杏珠さん、上越市内の福祉施設ポプラの家が紹介された。

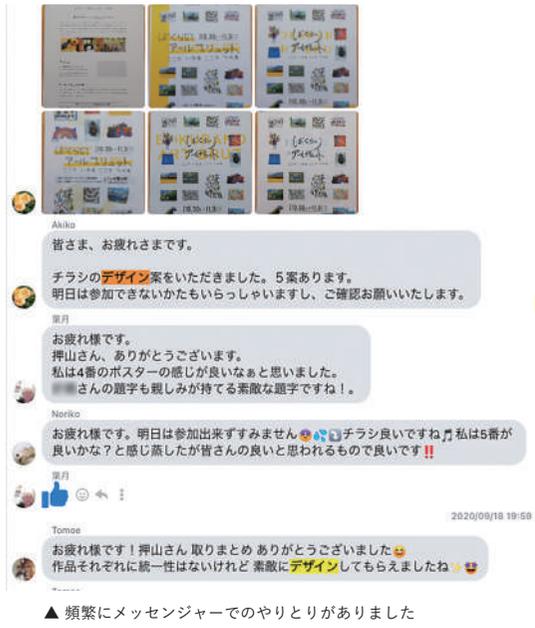
## 新潟県文化祭 2020 「新潟ステージチャンネル」への登録

情報資格試験さんのパフォーマンス作品「ねこマタのなかのマタ」を展覧会会期後に登録し、誰でも視聴可能となった。

その他、情報資格試験さんには、実行委員やNASC事務局に、さまざまな文化芸術に関する助成金やイベントの情報をお知らせいただきました。



YouTube 「ねこマタのなかのマタ」▲



## 動画作成報告 NASC事務局の動き

YouTube 新潟県アール・ブリュット・サポート・センター NASC のチャンネルを開設

参加型展示会「ぼくらのアール・ブリュット」では、作者の作品にまつわる動画を作成し、Youtubeで公開、また展覧会で上映しました。また、展覧会期間中のようすとして「ウォークスルー動画」を出展者が自ら撮影しました。また、東海・北陸ブロックの支援センター事業で作成した作者動画を同時に公開し、多くの方へ作者や作品について知っていただく機会をつくりました。



### 作者紹介動画



佐藤 葉月さん



馬場 悠斗さん



### 「ぼくらのアール・ブリュット」



ウォークスルー動画



## もちより展とはなんなのか

飯塚純

2020年の夏、角地智史さんからメールが届いた。

新潟県アール・ブリュット・サポート・センター（以下、NASC）のアートディレクターである角地智史さんは、数年前に上越市で開催していたアール・ブリュット展を鑑賞した際に共通の知人を紹介してもらった人だ。どこかで聞いた名前だな、とアトリエに帰宅してから書架から本を取り出しパラパラめくっていると、一冊の本に載っていた。なんと、僕が好きな作品を作っていた作家だった。（それから特に連絡を交わすわけではなかったのですが、メールが来たときは少し驚いた。）メールの内容は、上越市出身の美術家としての立場で「もちより展」という展示のアドバイスを行ってほしい……というものだった。

私はアール・ブリュット作品に造詣が深いわけではないが、地域社会に自分の活動が貢献できるなら……と依頼を引き受けた。

しかし、初めて当事者である作家、そのご家族、施設の支援者の方々と関わることとな

り、当初はどのような雰囲気なのか感触が掴みずだった。そのため、角地智史さんに遠隔ビデオ通話にて毎週木曜日に1時間ほどアール・ブリュットの歴史や作品について講義してもらいながら、ワークショップの準備を進めていった。

8月に開催された実行委員会会議にて参加する方々の数人と顔を合わせたのが、その後は11月の展示ワークショップまでの約2ヶ月間はSNSのメッセージ機能で質問などを受け付ける関わり方を行っていた。私は「参加者が自らいベントを作り上げて欲しい」という願いからグループ全体へのコミュニケーションを積極的に行わないようにしていた（なぜならば、コミュニケーションで問題が生じた際、そのコミュニケーション外にいる人の存在が重要になってくるケースがあるからである）。そのため、参加者グループ全体へは、美術の歴史や雑学などを一方的に発信しながら、必要に応じて個人間での交流を築くよう心がけていった。

しかし、実際に対面してそれぞれの展示に対する想いに触れていく中で、私自身、この「アール・ブリュット」という展示の在り方について少しずつ新しい気持ちが生えてきた。参加者は作品を介して、各々の生活の様子やこれまでの活動を伝えてくれる。その眼差しから、希望のような煌びやかなものを感じていた。実際に参加者から過去の「もちより展」の様子を聞いていくと、展示の準備やワークショップで「繋がり」を感じられたという意見があった。展示経験を重ねていく中で、より良い空間を作りたいという想いから今回の展示に繋がったようだった。

また、施設スタッフの方々も気持ちよく声を掛け合いながら、和やかな雰囲気で作業されていた場面が常にあり、全員が和やかに声を掛け合い、良い意味で緩く、和やかに、そして丁寧に準備が行われていった。展示会期中では、観賞に来た方々と作家やそのご家族の方々が作品を目の前にして話している姿が印象的であった。やはり、この姿こそ他にない「もちより展」ならではの光景だろう。私は、展示そのものの完成を目的としていたが、むしろ他愛もない会話や喜びあうその瞬間こそ、この「もちより」展の意義なのではないだろうか……と思った。

私自身、今回の依頼を受け夏、秋、冬と3つの季節の移り変わりを感じながら「アール・ブリュット」という存在に向き合う中で、この「もちより展」という活動が、当事者である「作家、ご家族、施設スタッフ、企画者」が一つの空間を作りあげていく展示があまりないケースだということを知った。

私は、一つの空間を作り上げていく参加者との交流を通じて、私は大切なものを教わった。それは、「持ち寄る」という姿勢である。本展示は「もちより展」と呼ばれているが、「各自が作品などを持って寄り集まる」意味ではなく、「想いを持ち寄る」ことを指していたことに気づいた。

改めて展示の名前を見てみると平仮名で書かれた「もちより」という言葉がスツと気持ちよく心に届いてくる。

一つの目標に向かう……その過程こそが地域のコミュニティとしての機能を果たすことがこれからの地域社会において人々が寄り添える存在になりえるのかもしれない。私が作家として、この故郷である地域へできることはなんだろうか。そんなことを考えながら、ふと参加者の笑顔と作品を思い出していた。

—2021年2月、真っ白な景色の窓辺にて。



飯塚純 / 美術家

新潟県上越市生まれ。ファウンド・フォトと呼ばれる制作手法で国内外問わず美術家として活動中。これまでに写真集などの書籍も数多く出版され、2018年には香港のアート・スペース、Tai Kwunにて作品の一部がアーティスト・ライブラリーに収蔵。近年では、新潟デザイン専門学校や上越市立清里小学校にて特別授業を行うなど、教育活動にも力を入れている。2020年に文化庁主催の「日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバル」の巡回展である「アール・ブリュット—日本人と自然—in 東海・北陸ブロック」の展示アドバイザーとして参加。

## Webメディアで対話記録を発信しています！

今年度、参加型展示会へ参加いただいた美術家の飯塚純さんは、NASCの角地アートディレクターと、アール・ブリュットから現代美術にいたるまで、2020年9月10日から12月5日まで広く対話を重ねました。この対話の記録をWebメディアnote（[https://note.com/niigata\\_artbrut](https://note.com/niigata_artbrut)）にまとめました。



2021年1月22日(金) ミュゼ雪小町にて

「参加者」

実行委員メンバー：馬場友絵（出展者 馬場悠斗さんご家族）、石塚香菜（出展者 石塚杏珠さんご家族）、佐藤葉月 NASC：飯塚純（2020年度展示アドバイザー）、角地智史（アートディレクター）、渡辺智穂（事務局スタッフ）

角地：この参加型展示会である『通称…もちより展（ぼくらのアール・ブリュット展）』は単年度事業のため、今までは1年ごとに皆さんへインタビューを行なってきました。今回は過去4回の展示を通して何が変わったか、何が起こってきたのかを改めて考えていきたいと思い、この時間を設けました。同時に、僕も企画者側からの視点での感想を聞いてもらえたらなと思いい、2019年から参加している渡辺さんと、今回2020年にアドバイザーとして外部から来た飯塚さんという最初の活動から知らない2人をお呼びしました。この時間の目的としては、他の地域での参加型展示会の参考になるような報告書としてまとめることができましたと考えています。

2016年『もちより展』が始まるまで

### 作品を見て

#### 一緒に喜んでくれたのが

#### 本当に嬉しかった

角地：2016年は僕がディレクションをしたアール・ブリュット展（長岡市で開催）へ馬場さんと石塚さんに出展いただきました。それが『もちより展』に繋がる最初のきっかけです。

渡辺：出展までの経緯はどうだったんでしょうか。

石塚：どういう経緯……？……？……忘れちゃったな（笑）。

馬場：えっと……でも確か……私の家に角地さんが来ましたよね？

角地：はい。その年にこのNASCが立ち上がった。作家の発掘調査が始まりました。とはいえ、なんの伝もなかったのでNASCを運営している「みんなでき」の職員から情報を集め、そこから何名かの作家を尋ねることをやっています。その集めた情報をもとに、石塚さん

と馬場さんに出展依頼をしました。

渡辺：調査からの出会いだったんですね。

角地：この時は、今の『もちより展』のようなワークショップ形式ではなく、作品をお借りして展示するだけでした。

石塚：展示が終わってから、改めて角地さんにインタビューを受けましたね。

角地：そこから作者のご家族と企画者としての関わりが始まりました。僕は毎年アール・ブリュット展を担当しているんですが、質の高い作品を展示する機会だけでなく、なかなか地元作者を扱えないという課題があります。ですので、次年度からは地元の方々を対象にワークショップを開催して、そこに参加した方は誰でも展示できる機会を作ろうと思いい、『もちより展』という企画を構想しました。

飯塚：馬場さんと石塚さんは、初めてアール・ブリュット展として展示されてどうでしたか？

馬場：なかなか他人に家の壁とか、取り溜めていた悠斗の作品とか全部を見せる機会ってないから、初めて角地さんが家に来てくださった時、作品を見て凄く良い反応をしていただいて本当に嬉しかったです。とにかく嬉しかったです。今までだったら自分一人だけで喜んでいただけを一緒に

2017年 第三者の視点が変わった

『もちより展（参加型展示会）』がスタート

### 直接、お客さんと

#### 会話できることが

#### 新鮮でした

渡辺：翌年の2017年に旧今井染物屋での『もちより展』に繋がってわけですね。

馬場：そうそう。研修形式のワークショップがあって、結構参加人数もいました。

飯塚：初めてワークショップや展示に参加されて、どうでしたか？

馬場：はい……その展示で面白かったのは、長岡の展示の時と違って『角地さん以外のお客さん』の反応があったことでした。

石塚：私はここで初めて馬場さんや、他の作家の方やそのご家族と繋がることができました。

馬場：ワークショップはすごくやる機会が多くて、正直苦しかった（笑）。いろいろ考えたり、書かされたり、発表させられたりして（笑）。苦しかったけれど……これは参加しなきゃ……って想いはありませんでした。



## 参加型展示会 ― 上越地区 ―

渡辺：今回は、角地さんが作品を選び展示して  
ましたが、今回はどうでしたか？

石塚：自分たちで展示する作品を決めましたね。  
馬場：私、すごくお客さんと会話をしたことを  
覚えてます。お客さんが来ると（嬉し  
くて）たくさん作品の説明しちゃって  
ました！最初は声をかけづらかったんで  
すが、だんだんと慣れてきて。この作品  
はね・・・得意げに説明してました  
（笑）。直接、会話できることは新鮮でし  
たね。

石塚：うんうん。

馬場：この展示ではブレ展示もなかったから当  
日に搬入って感じて時間もギリギリ。  
角地さんが意地悪そうに焦らすからコ  
ノー！って思っていました（笑）。

角地：まあまあ（笑）。

石塚：準備が大変そうだったので、私は事前準  
備をしていました。他の人を手伝う余裕  
はなかったけど、『どう？』って途中声を  
かけあったりしてました。

渡辺：自分自身で考えなければいけない瞬間  
が、結構多かったんですね。

石塚：そうですね。考えながら展示をしました。

渡辺：この展示で一気に作品や人との関わり方  
が変わったんですね。展示を終えてどう  
でしたか？

馬場：またやりたいなって思ったけど、終わっ  
たときは・・・脱力でした。やれること  
はやったなって満足感がありました。  
飯塚：ワークショップの資料を眺めている  
と・・・やること多そうですね  
（笑）。

石塚：直接展示に向けたワークショップじゃな  
かったので大変でした（笑）。

飯塚：最初から参加者自身が展示するって言っ  
てしまうと敷居が高く負担になるから、  
頃合いを見て角地さんが判断したんで  
しょうね。

石塚：なんか作戦があるんだらうなってことは  
感じていました（笑）。

### 『表現の捉え方』や

### 『名前や言葉の付け方』が 作品と同じように大事

角地：あの・・・いいですか？（笑）。実は

になっちゃったんですね。今思えば、  
もう少し身体を動かすようなワークも必  
要だった気がします。でも僕は、ワーク  
ショップで生まれた表現を紹介するため  
の言葉もまた、作品と同じように大事な  
んだと思っています。ただ、当時はそれ  
を展覧会の中で十分に生かせる場所ま  
でいかなかった・・・。あ、あと、僕は  
大変さを押し付けてる自覚はあるんで  
すよ（笑）。

一同：（笑）

角地：少し難しいことをしてるなって自覚して  
ますが、ワークを通じて印象的な出来事  
もありました。とにかく褒め合うワーク  
内容をした時があって、「よくとっておい  
たで賞」とか賞のネーミングを考えて、  
参加者同士が賞状を送り合うワークをし  
たんですね。その時に、参加者の一人が  
自分に宛てた賞状を涙しながら読んでい  
て・・・。うまく伝えられないんです  
が、すごく場の空気全体が良かった。僕  
の中でんーって感情が動きました。

石塚：うん、あの時間はすごく良かった。

馬場：うん。今、思い出したけど良い時間だっ  
たね。

角地：僕だけの勘違いじゃなくて良かった  
（笑）。その時間は参加者一体になった気



がしたんです。それと同時に、参加者の  
「自分の作品を展示したい」という言葉  
の先にあつた欲求を実感することができ  
ました。おそらく、その涙された参加者  
の方にとって、展示すること自体が目的  
ではないんですね。ただ単に作品を飾  
るだけでは、参加者の目的や欲求は満た  
されなかったと思います。展示の先に、  
あるいは別の軸でワークショップは重要  
なんだと、この『もちより展』の出来事  
を通して語れるようになりました。

2018年 展示経験を経て、  
参加者による実行委員会方式へ

### 自分たちで組み立てた 段ボールの展示什器

石塚：2018年のリブレリアホールで開催さ  
れた『もちより展』で佐藤葉月さんが登  
場ですね！

渡辺：今ではすっかり主要メンバーとして動い  
ていただいている佐藤さんは、2018  
年からのご参加でしたね。

葉月：はい。私の作品を見ていただいた時、好  
意的な感想をいただきました。それまで

資料には書かれているんですが、最初か  
ら展示はすることは決まっていたんで  
す。ただ、参加者の誰が展示まで参加す  
るかは後半まで決まっていませんでし  
た。展示希望者は1回でもワークショップ  
に参加したら展示できますよ・・・と  
いう内容の単発でのワークショップだっ  
たんです。確か・・・そんなルールにし  
ていた気がします。僕らも最初から全4  
回のワークショップに参加してくださ  
い、展示まで参加してください！と言え  
なかつたんですよ。言えなくて、ただ結  
果的に毎回来てくださる方は決まってい  
たので、展示までしますよね？って感じ  
で話を進めたような気がしています。僕  
ら企画者側も途中で誰が展示してくれ  
るんだらうって不安が大きかったです。  
飯塚：企画者としての角地さんが描くビジョン  
通りのワークショップができましたか？  
角地：当時は、最終的にはうまく着地できたか  
な・・・と思いました。が、反省点もあ  
ります。ワークショップの内容は『書く  
ワーク』が多かつたんですよ。僕は『表  
現の捉え方』や『名前や言葉の付け方』  
みたいなものが障害のある方の芸術活動  
では大事だと考えているのですが、でも  
それを優先しすぎて、頭でっかちな内容

## 参加型展示会 ― 上越地区 ―

誰にも絵を見せたことがなかったの、すごく嬉しかったのを覚えてます。

馬場：その時、私は葉月さんの絵を見て凄い絵だ！素晴らしい作品だ！って感じたのを覚えてます。

角地：企画者側の新しい試みとしては、今回の展示は段ボールで作った積み木のような什器を制作し、それを使ってもらうようにしましたね。

葉月：試行錯誤しながらやりました。図面を見ながら段ボールを組み上げていくんですけど、図面通りにいかない部分も多かった気がします。

馬場：切って無理やり繋げたりしたよね。やって見ないと分からないね！って（笑）。

渡辺：この時は事前に展示のプランシートを提出してたから、そういった組み合わせ自由な什器を発注できたんですね。

馬場：展示自体は以前より準備期間はあった気がする。色々確認できたから、そこは以前の展示よりやりやすかったな。

### 展示テーマ設定によつての意識のちがひ

石塚：この時の展示テーマが『遊び場』ということ、参加者は全員悩んでいました。

『ぶっぶっぶっ』ってなつた（笑）。

葉月：遊べるものを・・・て言われて。

飯塚：角地さんに質問ですが、『遊び』というテーマを設けたのはどのような意図でしたか？

角地：その時は『作品を募集します！』っていうよりは、『遊びを募集します！』という方が良い気がしてテーマとしました。そうした方が幅広い表現が集まると思ってた。でも、逆にその『遊び』という言葉の意味合いがとて狭く感じた方もいます。そこはテーマと参加者の齟齬みたいなものがあったのかもしれないですね。ただ、もう一つ意図があって・・・会場のリブレリアホールが広い場所だったので、鑑賞者が滞在しやすい場所にしたかったというのがあった。あと、会場の床が白黒の市松模様でゲームセンターのように見えたりすることもあって、『遊び』というテーマを選びました。



石塚：今回は『花ロード』という上越・高田の商店街で行われるイベントもあったおかげか、とても人が来ましたね。

角地：前回の旧今井染物屋さんでの反省点として、自分たちだけのイベントだと集客が多くないということがわかり、今回は街の恒例イベントにぶつけてみようという試みをしました。なので、花ロードの開催期間に展示を企画しました。結果、ふらっと色々な人が来てくれましたね。

### 2019年 参加者が主体となっていく活動へ

#### 自分たちだけで

いざれでできるように

鍛えてくださったんだな

渡辺：この2018年から2019年にかけて、実行委員会形式に変わったと思うんですけど・・・その年の夏に私が加わったんですが、前談として『皆さんで今後は頑張ってください。』って突き離された・・・と聞いておりますが（笑）。

一同：（笑）

角地：えっと・・・これには様々な事情がありまして、言える話と言えない話がある



# 振り返り座談会

## 参加型展示会 ― 上越地区 ―

んですが・・・(苦笑)。僕としては、この延長での継続を考えていたのですが、ある種、ここまで回数を重ねていたんですが、同じメンバーや場(上越地域)に対して時間をかけることがいいものなのか、と、僕も間の立場で色々な声を聞いてきたんです。NASCとしても葛藤があった。参加者が集まらなかったり、メンバーが固定化されてきていて、開いたものを目指しているが、ニーズに対してあった活動なのだろうか?・・・って疑問になったんですね。それで、『来年度は同じようにやっても・・・』って声があったわけなんです。

葉月..それで、実行委員長を決めましようってなって。

馬場..その場では決めなかったけれど・・・。石塚..終わった後に、声をかけられて私たちに

なりました。

馬場..まあ、いつまでサポートできるか分からないっていう背景が角地さんにあったからこそ、一回一回時間をかけて、自分たちだけでいざれできるようにと鍛えてくださったんだなっていうのは伝わりました。

角地..そもそも単年度事業だったので、別に



毎回、来年の話はしてなかったんです。そういう状況だったので、できる時間にガツと色々詰めて込んでやっていったように(振り返ってみると)感じています。スバルタの言い訳じゃないですが(笑)。

一同..(笑)



### チームで喜びあえる関係性へ

2020年

飯塚..そして、2020年にミュゼ雪小町で開催された第4回目の『もちより展』では、良いチームワークで展示できていましたね。僕は夏から関わることになりましたが、最初の印象は『とても和やかな実行委員会メンバー・チーム』というものでした。

葉月..2019年にリブレリアホールでの展示で段ボールを組み立てる共同作業をしてから、皆さんと打ち解けられた気がしています。

馬場..ペンキ塗りもしましたね(笑)。皆で一緒に作り上げてきた・・・仲間意識は強くなっていますよね。

飯塚..外部から関わった感想として、皆さん個々に苦労はあるかもしれませんが、実行委員会のやりとりがスムーズに動いているので安心感がありました。特にFacebookのメッセージジャーで皆さんが活発にコミュニケーションされていて、チラシ作りからメディア広報まで精力的に動いていたことが印象的でした。

角地..僕はそのメッセージジャーでのやりとりの中で、馬場さんが悠斗さんの作品が公募展で受賞されたことを報告し、皆さんで喜びを共有されていたことが、この『もちより展』の意義を感じました。また、不思議なことに2020年の『もちより展』の振り返り会で、当たり前に来年の話をしてたじゃないですか。これまでって来年はやるの?何やるの?ってどこか不安を感じたまま振り返り会を終えていたのですが、そこは参加者の心境が大きく変わってきていますよね。団体として何も言わなくても来年もやるような意識に変わってきたこと、嬉しく感じています。

飯塚..今後、皆さんはこの『もちより展』をどのようなものにしていきたいですか?

馬場..うーん・・・今はまだ考えられないかな(笑)。

葉月..私としては、風物詩みたいな感じで・・・上越で毎年、継続していくことでの『もちより展』が多くの人に知ってもらえたらって思ってます。

# 相談事例

新潟県アール・ブリュット・サポート・センターを開設して5年目となり、新潟県内での障害者芸術文化活動の事例が多くなってきました。創作活動と作品にまつわる契約についての相談が多くなりました。その一例を紹介します。

## 相談事例 1 権利・契約についての相談



障害のある方が描いた絵画（原画）の販売に関すること。  
個人から購入したいと希望があったが、原画の販売経験はありません。

相談者：創作活動を日中活動に取り入れている福祉施設



本人へ販売することへの意志確認と、それを支援・仲介する福祉施設の思いを再確認。結果は販売しない判断になりましたが、販売する場合は価格決めから契約書が必要になることを共有しました。滋賀県のアール・ブリュット・サポート・センターの（※）事例を示しました。

※障害のある人の造形活動に関する相談対応参考例(PDF) ▶



個人や企業から依頼があって創作する作品について

相談者：障害のある方の複製作品を企業へレンタルする仲介団体



元々その作者とは、複製作品のレンタルについて契約はしていた一方で、依頼があって制作した作品については要綱に含まれていませんでした。そのため、新しく業務委託契約を取り交わすことに向けて改めて話し合いを行うべく、調整を始めることになりました。依頼されて作品制作をする本人、その方が利用と作品管理している福祉施設、相談にきた仲介団体、と関わる団体が多い例のため、調整項目を整理しながら進めることとなります。

## 相談事例 2 発表の機会についての相談



障害者ということを公表して、作品発表をすることが怖い

作品を発表したい気持ちがある一方で、障害者の表現という形で自分の記憶や好き嫌いと同様に扱われている絵が紹介されるのが怖い。過去に SNS に匿名で掲載したこともあるが、好評を得た一方で常に公表していると、描きなおさくなってしまふ為、現在は非公認にしている。

相談者：20代 作家



不特定多数に作品を見せる展覧会等の形ではなく、ワークショップのような一時的な形で見せていくのはどうかと提案しました。福祉施設が定期的に一般に開いている、創作の機会を紹介しました。



これまで NASC が関わった展覧会等の機会は、障害を公表する形で行われてきましたが、今後公表しない形や、一般の公募機会へとつなげるサポートなど、取り組みを広げていく必要性を感じました。



### 研修会

### 権利保護

障害のある方の  
創作活動に係る  
事例検討会

参加者数：会場への来場 10 名、オンライン参加 10 施設 20 名

近年、障害のある方の創作活動に注目が集まり、県内でも展覧会などが盛んに行われるようになってきています。それに伴い作品自体の販売や商品化などの二次利用の動きも活発になってきました。障害のある方の創作活動が様々なモノとつながって、作者本人の暮らしが豊かになることは非常に良い事ですが、良かれと思ってやったことでも、知らず知らずのうちに作者本人を傷つけたり不利益を与えてしまうなど、権利を損なっている場合があります。

今回は、現場で起こっている実際の事例を持ち寄ってもらい、抱えている課題を解決できるように企画しました。オンラインと、会場への来場でのハイブリット開催としたところ、県域全体からの参加がありました。

最初に著作権の基本についての講義を講師よりいただき、後半は検討事例を中心に、質疑応答も交えながら充実の内容の会となりました。この事例検討会は過去にも開催していますが、そのたびに違った事例があり、これも障害のある方の芸術文化活動が増えてきたゆえのことであると感じました。

障害のある方の芸術文化活動というところを超えて、SNS への投稿や拡散にまつわる事例紹介もあり、継続して考えていきたいことが多く話されました。

**権利保護**

**障害のある方の創作活動に係る事例検討会**

近年、障害のある方の創作活動に注目が集まり、県内でも展覧会などが盛んに行われるようになってきています。それに伴い作品自体の販売や商品化などの二次利用の動きも活発になってきました。障害のある方の創作活動が様々なモノとつながって、作者本人の暮らしが豊かになることは非常に良い事ですが、良かれと思ってやったことでも、知らず知らずのうちに作者本人を傷つけたり不利益を与えてしまうなど、権利を損なっている場合があります。

今回は、現場で起こっている実際の事例を持ち寄ってもらい、抱えている課題を解決できるように企画しました。オンラインと、会場への来場でのハイブリット開催としたところ、県域全体からの参加がありました。

最初に著作権の基本についての講義を講師よりいただき、後半は検討事例を中心に、質疑応答も交えながら充実の内容の会となりました。この事例検討会は過去にも開催していますが、そのたびに違った事例があり、これも障害のある方の芸術文化活動が増えてきたゆえのことであると感じました。

障害のある方の芸術文化活動というところを超えて、SNS への投稿や拡散にまつわる事例紹介もあり、継続して考えていきたいことが多く話されました。

日時 2021年2月24日(水) 13:30～16:00

会場 MOYORe: (新潟市中央区)

対象者 本人とその家族、福祉施設職員、病院職員、芸術関係者、学生など

定員 15名(オンライン参加も可)

参加費 無料

講師 見竹泰人(弁護士:みだけ法律事務所)



**実績 (敬称略)**

- ・発表参加者 13名  
 自宅より参加：山崎大、笠松優希、荻野雅人、馬場悠斗 (馬場友絵)  
 施設より参加：Mifuyu、KAZUMA (こずもすの家 小林支援員)、廣川成 (あおの風 菅井支援員、磯野支援員)、泉寛一 (さんさん工房)
- 新潟・上越会場より参加：Yohko、佐藤葉月、情報資格試験、あらいぐま
- ・オーディエンス参加 40名 (うち、会場へ来場：10名)
- ・ゲストオーディエンス  
 江口歩 (新潟お笑い集団 NAMARA)  
 小林竜也 (はじまりの美術館)  
 武田和恵 (やまがた障がい者芸術活動推進センター ぎやらりーら・ら・ら)  
 桑原洋行 (新潟県福祉保健部障害福祉課)

**「もの語り」**  
 オンライン発表会  
 2020.8.7 (金) 13:30~16:30 (途中休憩あり)  
 場 所 オンライン上の部屋 (アプリアZOOMを使用します)  
 [サテライト会場]  
 ● 町屋交流館 高田小町 (上越市) ● 新潟ユニオンプラザ研修室2 (新潟市)

**「もの語り」賞 受賞者**

- 馬場悠斗 (新潟お笑い集団 NAMARA 江口歩選)
- 廣川成 [あおの風 菅井支援員、磯野支援員] (はじまりの美術館 小林竜也選)
- Yohko (ぎやらりーら・ら・ら 武田和恵選)
- 佐藤葉月 (新潟県福祉保健部障害福祉課 桑原洋行選)

発表者は定員 15 名のところ、13 名の参加がありました。

**「もの語り」**  
 オンライン発表会  
 発表者としてアサインが「もの語り賞」をいただきます。選ばれた方は、賞状と賞品をご用意いたします。発表者として一対一もあり、当日発表からもちろん、発表されたことごとく、褒めてくださる方もおられますので、

**ゲストオーディエンス**  
 江口 歩さん (新潟お笑い集団 NAMARA)  
 小林 竜也さん (はじまりの美術館)  
 高田 龍之介さん (障がい者芸術活動推進センター ぎやらりーら・ら・ら)  
 桑原 洋行さん (新潟県障害福祉課)

**会場：オンライン上の部屋 (アプリアZOOMを使用します)**  
 [サテライト会場] 定員：各15名  
 ● 町屋交流館 高田小町 (上越市) ● 新潟ユニオンプラザ研修室2 (新潟市)  
 研修室が空いている場合は、サテライト会場へ変更いたします。

**参加条件** (必ず事前申込ください) (無料)

<b>A 作品を発表したい方</b> 対象：新潟県内にお住まいの障がいのある方、またはその障がいの方 定員：15名 締め切り：7月27日(月) ● エントリーフォームから作品発表を送ることができます。 ● オンライン上の部屋で発表させていただきます。 (できない場合はサテライト会場へ参加いただくことが可能です。)	<b>B 発表を聴きたい方 (オーディエンス)</b> 対象：どなたでも 定員：なし 締め切り：8月6日(木) ● 事前に申込みフォームから 申込みいただけます。
--	---

**電子申し込みの申し込み先**  
 TEL: 025-538-7266 FAX: 025-538-7262  
 新潟県ユニオンプラザ研修センター-NASC E-mail: info@nigata-artfest.net http://nigata-artfest.net/  
 (上越市高田町2-10-25) 研修室・研修棟2階 http://www.facebook.com/nigataartfestsupportcenter/

**申し込み先**  
 ● 町屋交流館: 4-00000001 ● オンラインZOOM ● 高田小町(上越市) ● 新潟ユニオンプラザ研修室(新潟市)

お名前: \_\_\_\_\_ 電話番号: \_\_\_\_\_  
 E-mailアドレス: \_\_\_\_\_

**発表の機会**

**『ものと語り』オンライン発表会**

**企画の立ち上げ**  
 2020年度当初より、コロナ禍でイベント・展示会の開催ができなくなりました。中、NASCではどうしたら発表の機会が作れるのかを考え、企画しました。

5月に参加型展示会の実行委員会をオンライン会議 (Zoom) で行いました。(※P5参照) その際に試行的に、近況報告も含めた作品の発表を数名に行っていたいただきました。

オンラインといっても、慣れている方は少ないだろうという観点のもと、また、さまざまな状況の方が参加できるように、企画のポイントを押さえることになりました。

**企画のポイント**

- 1) 発表者は事前申込制にし、Zoomの通信テストを個別におこなう。
- 2) 配信拠点を新潟市・上越市と2か所にし、通信環境が整わない方のために、直接来場いただける枠を設けた。
- 3) オンライン会議の特性上、発表を聞いている人の反応が話し手に伝わりにくく、発表者が緊張する状況も考え、お客さんも同じZoom上に参加してもらい、反応していただけるようにした。
- 4) 発表時間の設定。多くの方にご参加いただきたいが、一人に時間をかけると会全体の時間が長くなってしまいうため、一人の発表時間を8分間とし、タイムスケジュールを考慮した。

当回のレポート

ジャンルは絵画、詩、小説、立体作品、写真、パフォーマンスと多彩でした。オンライン参加の発表者は、ご自宅や施設など日常的に過ごしている場所からだったため、実際に制作している様子や、エントリーした作品以外のものもその場で臨機応変に見せてくださったりと、オンラインでの特徴がよく表れた会となりました。また、当初想定していなかった、発表者同士がチャット機能でコメントや感想を共有する場面が見えました。時間が進むにつれて投稿が増えていき、ゲストオーディエンスだけでない気軽な感想を交換することができました。

発表者、オーディエンスともに、オンラインでこそ参加できた方が多くいらっしゃいました。両者の参加者の特徴として、自宅等一人で制作されている方かつ、自分自身でオンラインに必要な機器等を扱える当事者の方が多かった半面、福祉施設の参加割合は少なく、施設内でのインターネットやそれに係る機器を取り扱える状態にない場合がまだまだ多い印象がありました。

コロナ禍でなくても、施設や自宅から外出ができない方の参加があったのはオンライン



新潟ユニゾンプラザより配信

新潟会場



施設からの参加

事業ならではの感じました。運営面では、リアルタイムでの配信のため、通信環境が大きな課題となります。レンタルのWifiですと環境によって通信状態は不安定になることもあります。今回は参加者が会場へ来場できる企画でしたので、①来場しやすさ（アクセスビリティ）、②バリアフリー、③通信環境 3点全て整っている会場を探しましたが、まだまだ県内には少ない印象がありました（企画時2020年6月時点）。

「ものと語り」賞の受賞者へは、後にNASCが調査へ伺うことになっていましたが、4名とも過去に調査実績があったため、新規の出会いがあった方へ後日調査訪問となりました（※P34参照）。

また、この企画は山形県・福島県・新潟県の3県合同企画でもありました。新潟県、山形県、福島県の3県は連携して障害のある方の芸術活動の推進を行っています。この発表会をきっかけに、山形県や福島県での展覧会の出展へ繋がった方もおり、3県のネットワーク形成としての企画にも繋げることができました。

3県合同企画としてNAScが登壇した事業

9月21日(月)

山形ビエンナーレ トークプログラム「まちのおくゆき〜ひょうげんがうまれるとき〜」

出演：小林竜也（はじまりの美術館）、坂野健一郎（NAScセンター長）、角地智史（NAScアートディレクター）

モデレーター：武田和恵（やまがたアートサポートセンターら・ら・ら）

アイハラケンジ（東北芸術工科大学グラフィックデザイン学科准教授）

11月21日(土)

第4回福島県障がい者芸術作品展「きになる⇔ひょうげん2020」

オープニングトークイベント「表現のまわりに目を向ける」

出演：小林竜也（はじまりの美術館）、武田和恵（やまがたアートサポートセンターら・ら・ら）

坂野健一郎（NAScセンター長）



自宅からの参加



新潟市内の同じ職場で働いていたお二人が立ち上げた、障害のある方の自由な活動を推進するピアサポートグループです。2019年に活動を始める、月に一度程度東区の公民会で例会を開いています。代表の藤巻さんを中心となって活動しています。藤巻さんと、ホームページ作成担当の西川さんへ、NASCがお話を伺いました。

11月23日には主催イベントとして「ほほえみフェスティバル」を開催。その後も定例会を重ね、活動を続けています。



詳細は NASC の note をご覧ください。



「GOING MY WAY 藤巻啓介さん」



新潟市のピアサポートグループほほえみの木  
ほほえみフェスティバル

第18回新潟県障害者芸術文化祭 ～ふくらむアートふあっとにいがたフェスティバル～

アール・ブリュット賞が今年度より新設されました。

美術作品を対象として今年度から新設されたアール・ブリュット賞の審査員として、NASCの角地アートディレクターが参画し、3名の方の作品が選出されました。この賞は正規の美術教育等にとらわれず、独自の発想と方法により作成した感性豊かな作品に贈られました。また、NASCとして美術展・ステージの運営補助も行いました。

概要

第18回新潟県障害者芸術文化祭（美術展、ステージ発表）

会場：新潟ユニゾンプラザ（新潟市中央区上所2丁目2-2）

会期：2020年11月10日～15日、ステージは11月15日のみ



左より

絵画部門：無題 高野淳

工芸部門：「クロウサギとゆかいな仲間たち」星野美紀 「自創作の主人公」耀アカル

協力委員会

本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、年度末に一度のみの開催となりましたが、本事業へさまざまなご意見をいただきました。

第1回協力委員会

2021年3月24日 13:30-15:30 会場：新潟ユニゾンプラザ研修室

委員名簿（五十音順）

小川直美 委員  
（社会福祉法人十日町福祉会 障がい者地域生活支援センターあおぞら）

小林一樹 委員（新潟市議会議員）

迫一成 委員（hickory03travelers / 新潟アートディレクターズクラブ会長）

関久美子 委員（新潟青陵大学短期大学部人間総合学科准教授）

オブザーバー

新潟県県民生活・環境部文化振興課文化事業係

新潟県福祉保健部障害福祉課地域生活支援係（本事業担当）

研修会等の登壇一覧

2020年

6月24日 新潟県立久比岐高等学校 授業 NASCの活動紹介

8月26日 十日町市相談支援専門員研修会 NASCの活動紹介

10月4日 新潟市西蒲区 株式会社リプラス主催研修会 NASCの活動紹介

11月4日 高田ロータリークラブ、高田東ロータリークラブ例会 NASCの活動紹介

11月23日 ピアサポートグループ ほほえみの木主催「ほほえみフェスティバル」

9月21日 山形ピエンナーレトークプログラム 「まちのおくゆき～ひょうげんがうまれるとき～」

11月21日 第4回福島県障がい者芸術作品展 「きになる⇒ひょうげん 2020」  
オープニングトークイベント 「表現のまわりに目を向ける」

2021年

3月27日 ピアサポートグループ ほほえみの木主催 「にじいろフェア」

メディア掲載一覧

[新聞]

上越タイムス 2020年10月30日 ぼくらのアール・ブリュット

新潟日報 2020年10月31日 ぼくらのアール・ブリュット

上越タイムス 2020年12月9日 高田ロータリークラブ グッズデザイン展

上越タイムス 2020年11月28日 高田ロータリークラブ グッズデザイン展

[Webメディア]

新潟文化物語 file-139 新潟発！すぐ腕アートプロデューサー（前編）



▲上越タイムス 2020年11月28日  
高田ロータリークラブ グッズデザイン展



商品化支援

フクシ×アート×デザイン展

実績

応募期間：2020年8月21日（金）～2020年9月18日（金）  
 応募資格：新潟県内の障害のある方、またはその周りの方  
 展覧会期：2020年11月28日（土）～12月13日（日）  
 会場：ミュゼ雪小町 研修室（上越市本町5-4-5 あすとぴあ高田5階）  
 来場者数：1,389名  
 ※日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバル in 東海・北陸ブロックと同時開催

商品化された方（敬称略）

- 石黒 怜子（りとららいふ、きら）
- 小柳 俊貴（さんろーど）
- 久保田 学
- 佐藤 葉月
- しゅんすけ（ラグーン）
- 田中 貴美子（さんろーど）
- たろきち（ラグーン）
- 服部 隆司（ポプラの家）
- 馬場 悠斗
- 平岡 史雄（C サボ・アカデミー）

招待出展

- 新井理沙
- 長谷川あ久里



地域との協働

高田ロータリークラブが主催、NASCが企画提案、運営させていただきました。

フクシとアートとデザインを融合させたグッズの展示・販売会を開催。アート活動がグッズになることで、実際にアーティストや施設の対価につながる仕組みづくりをこの事業を通じてチャレンジしました。事前に新潟県内の障害のある方の作品を公募し、作品データをグッズ化することによって作家の収入につながる仕組みを作りました。

結果、県内から36名の応募があり、うち10名の作品をグッズ化しました。商品として、ハンカチ、Tシャツ、クッション、段ボール、スツール、ジャム、タペストリーを作成し、多くの方へご購入いただきました。

販売商品の経費を除いた売り上げは、フードバンクじょうえつ（※）へ全額寄付いたしました。

※フードバンクじょうえつ

寄付等により食材をストックし緊急的に食を必要としている方に支援を行う団体

（事務局：NPO法人くびき野NPOサポートセンター内）

令和2年度  
新潟県障害者芸術文化活動普及支援事業 事業報告書

発行日 2021年3月  
企画・編集・発行  
社会福祉法人みんなできる

発行責任者：大島誠  
デザイン／イラスト：アートキャンプ新潟  
(桂優梨、富樫真美)

写真：新潟県オール・ブリュット・サポート・センター NASC  
月田小夏 (P8,9,34,35)

新潟県オール・ブリュット・サポート・センター NASC  
〒943-0834 新潟県上越市西城町 2-10-25-307  
社会福祉法人みんなできる内  
TEL：025-530-7264 FAX：025-530-7261  
MAIL：info@niigata-artbrut.net  
http://www.niigata-artbrut.net



OPEN  
ふふふのお店

概要 休眠預金等活用：新型コロナウイルス対応緊急支援助成

“表現活動の場づくりを通じた生活困窮者支援事業”として採択を受けました。  
みんなできる（NASC）では、表現活動の場づくりを通じて地域の方の居場所づくり、  
アート作品や市内を中心とした障害者施設におけるプロダクトの販売を行います。

住所：上越市西城町 2-10-25 大島ビル 1F

実施団体：全国コミュニティ財団協会